

子牛と繁殖牛の飼養管理について

元気な子牛を育てるためには

分娩前後の母牛と子牛の管理が大切です

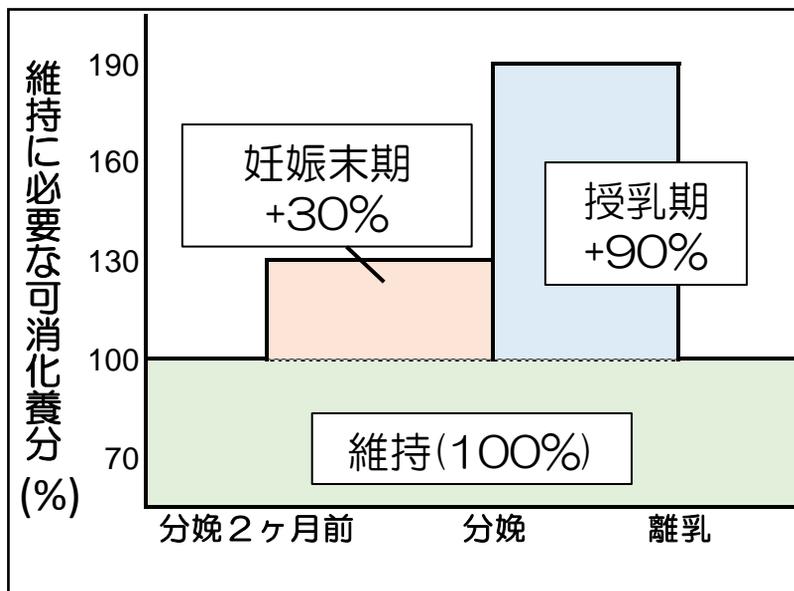
◎分娩前後の母牛

分娩前

分娩2ヶ月前頃から胎子が急速に成長します。

分娩後

分娩後約1ヶ月頃には、1日7kg程度泌乳していると考えられています。



増し飼いで十分な栄養を！

- ・ 免疫力の強い子牛をつくる
- ・ 繁殖機能を早期に回復させ、分娩間隔を短くする

当センターの繁殖改善マニュアル（令和2年度）も御参考にしてください。QRコードはこちら→



◎哺乳期の子牛

初乳の成分

- ・ 免疫にかかわるもの（IgG、白血球など）
- ・ 成長にかかわるもの（成長ホルモンなど）
- ・ 栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）

子牛の健康や成長に影響

▶ **初乳をきちんと飲ませましょう！**

給与のポイント

- できるだけ早く : 抗体吸収が低下する前の6時間以内に
- 質の良い初乳を : IgG濃度が50g/L以上が良質
- たくさん飲ませる : 飲めた分だけ血中の抗体も増える

乳質について

初産牛の初乳中IgG濃度は経産牛よりも低いと言われていたのですが、当センターではどうか調査しました。

【調査した牛】11頭（初産牛5頭、経産牛6頭）

【調査方法】採取した初乳のBrix値を初乳濃度計で測定
(IgG濃度が推定できる値で、20%以上が良質)

初産牛	初乳Brix値(%)	産次数(回)	子牛体重(kg)	経産牛	初乳Brix値(%)	産次数(回)	子牛体重(kg)
A	18.9	0	37.0	F	20.3	2	33.8
B	19.4	0	33.3	G	27.3	1	28.0
C	14.8	0	30.7	H	22.9	4	45.9
D	18.2	0	36.4	I	30.9	6	39.7
E	20.6	0	33.7	J	24.6	5	32.6
平均	18.4	0	34.2	K	23.7	2	45.0
				平均	25.0	3.3	37.5

初産牛の方が低い！

注意したい牛

- 初産牛の子牛
- 生後数時間で明らかに飲めていない子牛
- 生後すぐに人工哺乳になる子牛

**初乳製剤を
飲ませま
しょう！**

栃木県畜産酪農研究センターHPのご案内

～研究成果や技術情報を随時アップしています～

- 畜産酪農研究センターだより（技術対策やイベント等の情報も）
 - 肉用牛の繁殖改善マニュアル
 - 肉用牛の暑熱対策
- など



<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g70/index.html>

一度、検索してみてください。